



■会長年頭あいさつ

「第四期中期計画の策定に向けて」 ー新たな時代を切り拓く社会福祉士の使命ー

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より本会の活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和されつつも、社会情勢は目まぐるしく変化し、福祉を取り巻く課題も複雑化・多様化を極めた一年でした。こうした状況の中で、「人が人として尊重される社会」を目指し、県内各地で奮闘される社会福祉士の皆様の献身的なご尽力に対し、改めて敬意を表する次第です。

特に岩手県においては、超高齢社会への進行、人口減少、過疎化、アーバンベアを含めた災害への備えなど、地域特有の課題が山積しています。こうした課題の解決に当たっては、生活困窮、権利擁護、多職種連携といった専門性の高い分野において、社会福祉士の視点と実践力が不可欠です。

現在、2026年から2030年の五か年の「第四期中期計画」を理事会で作成しているところです。「第四期中期計画」では、これまでの五つの基本方針に「地域福祉の推進と貢献」を加えました。福祉やソーシャルワークの分野にもICT(Information and Communication Technology)やAI(artificial intelligence)技術が不可欠となり、計画にも盛り込む必要があります。しかし、AI等の技術が進化しようとも行政、医療、教育、地域住民など多様な関係者との「つなぎ役」として、個別支援と地域支援の両輪で機能していくことが求められています。そこには、「社会福祉士会」への信頼と実践力への期待があると言えます。「地域福祉の推進と貢献」において、各ブロック、委員会から5年先の見通しを提案いただいています。

「第四期中期計画」策定にあたり、会員の皆様が専門職としての資質をより一層高められるよう、倫理綱領に基づいた研修の充実、地域包括ケアシステムの中核を担う人材育成、そして、福祉の現場で声を上げられる環境づくりの支援に力を注いでまいります。

今年は、社会の新たな局面を迎え、私たち社会福祉士がその「真価」を問われる年になるでしょう。地域に深く根差し、目の前の生活者の「声なき声」を聴き取り、その人らしい自立と社会参加を支援する。この普遍的な使命を胸に、会員一同、結束して歩を進めてまいりたいと存じます。

結びに、皆様のたゆまぬ努力と情熱が、岩手県の福祉を明るく豊かなものにすることを確信しております。本年が、会員の皆様にとって実り多き一年となりますよう心よりご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 岩手県社会福祉士会 会長 坂口 繁治

【目次】

P2：会員の輪リレートーク

P3～5：【重要】臨時総会・ばあとなあ報告

P5～6：委員会だより・会員の声

P7：理事会報告

P8：事務局だより

※岩手県社会福祉士会 HP でカラー版を公開中！ 🖨

会員の輪 ～リレートーク～

AI の時代だからこそ思う、「アナログ」な話

盛岡ブロック 岩館 弘幸（特別養護老人ホーム秀峰苑）

特別養護老人ホーム秀峰苑 生活相談員の岩館弘幸と申します。盛岡ブロックでは、現在会計を担当させて頂いております。

ニュースや研修会で「AI」や「DX」という言葉を耳にする機会が増えました。文章作成が得意な生成 AI の登場など、技術の進歩は目覚ましく、私たちの福祉現場にも、少しずつ変化の波が訪れているのを感じます。便利になることへの期待がある一方で、ふと「AI がどんどん賢くなったら、私たちの仕事はどうなっていくのだろう」と、漠然とした不安を感じることはないでしょうか。

先日、ある動画で「AI 時代における仕事」について語られているのを目にしました。そこで語られていた内容を自分なりに咀嚼し、日々の実践と照らし合わせてみたとき、「私たちが普段大切にしていることは、これからも変わらず大切で在り続けるのではないかと、再確認できた気がしました。今回は、日々の中でふと考えたことを、少しお話しさせていただければと思います。

今やインターネットを開けば、地域の事業所情報や制度の概要は、誰でも手軽に調べられる時代です。情報の「量」や「正確さ」だけで言えば、AI の方が詳しいかもしれません。けれど、私たちが普段、利用者さんにお伝えしていることは、そうしたスペック情報だけではないような気がします。

私たちが日々、自分の目と耳、そして肌で感じ取ってきた「その場の空気感」や「温度」。そうした、ネットやデータには載らない「生きた情報」こそが、不安を抱える利用者さんの背中を、そっと支える材料になっているのではないのでしょうか。

AI が普及し、一般的な情報へのアクセスが簡単になる時代だからこそ、地域をよく知る「ご近所さん」のような、あるいは「村の事情通」のような、そんな泥臭い身体感覚を持ったソーシャルワーカーの存在が、より一層、味わい深いものになっていくのかもしれません。

AI に尋ねれば、最適な支援機関の候補をリストアップしてくれるでしょう。しかし、そこへ電話をかけ、相手の顔を思い浮かべながら相談を持ちかけることは、今のところ私たちにはできません。相手の忙しさを慮ったり、その場の状況に合わせて言葉を選んだり。時には「あなたのお願ひなら」と無理を聞いてもらったり。そうした、長年の付き合いの中で培ってきた「関係性」や、ある種のアナログな「調整力」は、どれだけ技術が進歩しても、変わらず私たちの手の中にある大切な技術なのだと思います。

ビジネスの世界でも、最後に物を届ける「ラストワンマイル」が重要だと言われるそうですが、福祉においても、制度やサービスを利用者さんの暮らしに届ける「最後の一手」は、人の温かい手によるものが望ましいのではないかと思います。

次は、同級生つながりになります。盛岡ブロック地域包括支援委員会委員長 滝沢市役所 保険年金課の熊谷はるえさんにバトンをお渡ししたいと思います。大学祭にバンドを組んで出たことは懐かしい思い出ですね（笑）。よろしくお願いいたします。

【重要報告】 2025 年度 臨時総会 報告

【日時】：2025 年 11 月 22 日（土）

10:00～10:45

【会場】：岩手県社会福祉士会「銀河ルーム」

Web（ZOOM ミーティング）同時開催

・正会員：836 名（総会開催通知時

2025.10.21）

・出席者：会場 47 名

（うち Web 出席者 37 名） 監事 1 名

・書面による議決権行使 601 通

【会長挨拶】

これまでの後見事務が横領および刑罰事件に相当し、専門職として著しく不適切な行為であり、10 月 11 日の第 3 回理事会でも議論し、急遽開催する運びとなった。会長の立場で、専門職としての職能団体で「除名処分」の決議を行うには大変心苦しいところだが、本会の定款にも掲げている権利擁護を必要とする県民の相談援助事業、ソーシャルワークの定義や倫理綱領・行動規範で示している「人権」や「社会正義」に反する行為であり、岩手県社会福祉士会の姿勢を示す必要があることが理事会でも議論され臨時総会の開催となった。

【総会成立報告】

本臨時総会は、臨時総会の通知を行った 10 月 21 日時点で、総正会員数 836 名で、書面での表決が 601 通、会場参加者 9 名、総正会員数の半数の出席とみなされ議決条件が成立した。

【議長選出】

定款第 15 条に基づき、本総会に出席している正会員から選出し、事務局案という声があり沿岸ブロックの久坂義臣氏を選任、参加者の承認を得る。

【議事】

（1）議案の提案「会員の除名について」

〇〇〇〇（会員番号：〇〇〇〇〇〇）を除名する。除名の理由：定款第 9 条に抵触したため。

・副会長（ばあとなあ委員長）の白畑氏から提案された。

（2）質疑応答

○沿岸ブロック：A 氏

問題の解決の仕方が大事である。事件の一連の情報の公表の仕方をどうするのか。問題が出た時に大事なのは問題そのものではなく、「解決の仕方」である。事実を適切に伝え、市民から信頼されるような行動を取りたいと常々思っている。

⇒会長：ニュースレター・HP にも掲載し、一般の人にも分かるようにしている。臨時総会開催についても、HP に掲載している。専門職 3 団体・家庭裁判所と情報共有している。隠蔽体質ではないことを共有している。今後の市町村レベル・マスコミへの報告を議論してないのは事実である。

○沿岸ブロック：A 氏

私達は、信用が大事。身上保護はばあとなあの拠って立つべきところである。この事件は、皆に注意を促しており、各自が自己批判して欲しい。前に進むことで、この問題は皆のプラスになる。

⇒会長：貴重な意見に感謝申し上げる。

○久慈ブロック：B 氏

動機は何か。直接話した白畑さん・熊谷さんが感じたことがあったら教え願いたい。

⇒白畑：本人は弁明書でも明らかにしていない。本人のフィールドは高齢分野であり、被後見人は精神障害分野であり、ファーストコンタクトから難しさを感じていたようである。報酬が他の人より著しく低額の時もあった。多分が苦労しているのに、何で低額なのかということもあったかもしれない。推測であるが。いずれにしても、記録を捏造して交通費を得たのは未だに理解できない。

⇒熊谷：本人は明確に回答していない。引き継いだ後見人にも最新の通帳しか渡さなかったことや、被後見人が通帳を見せてと言っても見せなかったことから、故意的なところも感じた。推測であるが。

○久慈ブロック：A氏

家裁に変更をお願いする、交代することがあるのか。

⇒白畑：本人からの申し出があり、変更したケースはある。今回は、月1回なので面会はできると後見人は思っており、相談はなかった。本来は、交代したほうがいいのではないかと積極的に話しても良かったかなと思うし、そこまで把握しきれなかった。

○久慈ブロック：A氏

報酬が低かったことが動機につながったとも推測できるが、助成制度は周知されているか。

⇒白畑：後見人の報酬が低かった時期と報酬助成制度開始の時期がずれている。報酬助成制度が開始になってからは、後見人の報酬も上がっており大丈夫であった。会として、最低限の専門職の報酬を担保する必要があることから、報酬助成制度を作った。

(3) 決議

ア 議決行使数報告（副会長 西尾）

賛成：591 通 反対：8 通 棄権：2 通

イ 藤澤幹事から

議決権行使の状況について、議案の賛否を臨時総会開始前に上記のとおり確認したので報告する。

ウ 結果

賛成 591 であり、総会員数の3分の2の558 通を超えていることから承認される。

(4) その他：会長

ア この結果は、本人に書面で報告する。

除名であるため、日本社会福祉士会にも報告する。

イ 今後、各ブロック・委員会を含めて、社会福祉士の倫理綱領・行動規範を意識した活動を私たちが互いに組織的に取り組んでいく必要がある。この臨時総会を機会に、皆さんと共に社会福祉士会が地域に本当に必要とされるように目指し行けるようにしたいと考えている。宜しくお願いした。

【閉会】

■信頼回復と新たな挑戦へ

ばあとなあ 運営委員長 白畑 勇

県士会の皆様あけましておめでとうございます。

◆活動の振り返り：信頼回復への道

昨年を振り返りますと、活動の根幹を揺るがす出来事がありました。6月に発覚した苦情対応に端を発した会員の処分、その後に判明した横領の事案は、県士会史上、かつてない事態となり、臨時総会での除名処分決議に至りました。

横領という不正行為はもちろんのこと、この事態の背景には身上保護を軽視していたと言わざるを得ない側面があり、これは「ばあとなあ」の存在意義を揺るがし、ご本人や関係者の皆様の信頼を深く裏切る結果となりました。私たちは、この経験を深く反省し、制度の信頼回復に向け、ばあとなあ会員が一丸となって、より一層の倫理と専門性の向上に努めていきます。

◆高まる受任ニーズと人材育成・法人後見事業の船出

家庭裁判所からの推薦依頼は毎年増加の一途をたどっており、ばあとなあが社会から必要とされていることを強く感じています。我々は、新たな担い手を育成する取り組みを進めており、この春には24名が名簿登録をする見込みです。また、来年度は新カリキュラムによる人材育成研修を開催し、新しい後見制度に対応できる人材を育成します。

昨年度は、法人後見事業をスタートさせることができました。この事業は、個人の受任では対応が難しい困難ケースへの対応、受任会員の心身状態の変化などによる交代の受け皿、そして個人受任に不安がある会員へのサポート体制として期待されています。現在、監督1件を含む4件を受任しておりますが、今後は受任者（事務執行者）の確保が大きな課

題となります。

◆安定的な運営体制の整備と民法改正への備え

拡大する受任数と法人後見事業を円滑に推進するためには、組織体制の強化が不可欠です。そこで、来年度から事務員雇用を実現したいと考えています。人件費のねん出方法について検討を進めており、1月の理事会に提案できるよう準備を進めています。

また、今年中には、民法改正の法案が国会に上程される見込みです。後見の類型が見直され、意思決定支援が重視される方向での改正となることは、私たちにとって大きなチャンスと捉えることができます。身上保護のモデルを示すとともに、求められる役割の変化に対応できるよう、地域における意思決定支援モデルを構築していきましょう。

◆活動記録システムを最大限に活用ください

最後に、「ぱあとなあ活動記録システム」について改めてお願いです。このシステムは、定期・随時報告だけでなく、最新の「ぱあとなあ」情報を発信するメッセージ機能としても大変重要です。新規メッセージがあると、ご登録のメールアドレスに通知が行きますので、活動の最新情報を見落とさないよう、必ずメールをご確認のうえ、システムにログインしていただくようお願いいたします。

本年も、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

■委員会だより「生涯研修センター」 「学び続ける大切さ」

生涯研修センター 委員長 熊谷 雅順

新一万円札の肖像、渋沢栄一氏は「もうこれで満足だという時はすなわち衰える時である」と語っています。つまり現状に満足せず常に高みを目指す姿勢の大切さと、人間は「これで十分」と思ったら、その時点で成長は止まってしまうということを説いた言葉です。

変化の激しいこの世の中では、企業も個人も「学び続けること」が新しい知識や技術の進展となります。企業にとっては、社員の成長が組織の成長に直結し、イノベーションや生産性向上につながりますし、また個人にとっては、長期的なキャリアの安定と発展を実現するために不可欠です。学びを止めると新たな知識や視点を得る機会が減少し思考が固定化される危険性があり、その結果、困難な問題に直面した際に柔軟な発想や創造的な解決策を見出すことが難しくなります。特に、事件、トラブルが多い現代では、迅速な意思決定や問題解決能力が求められるため、学びを止めることはキャリアの停滞につながる可能性があります。社会福祉士会では生涯研修制度という形で、生涯にわたって学べる体系が整っております。特に基礎研修は、新会員だけではなくベテラン会員でも自身を振り返りスキルアップを目指せる内容で、最終的には実践研究発表できるところまで学べますので、とても基礎とは思えないレベルの高い研修となっています。2025年度はeラーニングと対面の併用で行い、実績としては、基礎研修Ⅲ修了者33名、Ⅱ修了者43名、Ⅰ修了者40名でした。東北六県の中では、例年岩手県の受講者が一番多く他県からは「岩手の方々は真面目で努力家が多いですね。素晴らしいです」と言われております。ちなみに認定社会福祉士取得者も20名以上で、こちらも東北で一番多い県となっております。



▲ 活気あるグループワーク



▲ 熱い思いを言葉に発表

このような結果が出る理由としては、各組織の先輩方が新人の目標になるような社会福祉士であることと、社会福祉士養成学校の教員(会員)のお勧め等が要因かと思われます。もちろん受講者の皆様が真面目で努力家であることが一番の理由です。今年度も数多くの方が受講されており、今後の岩手の福祉の未来は明るいと感じられました。

また、研修委員メンバーは、認定社会福祉士3名、基礎研修講師養成研修修了者9名で、科目担当を編成しており少数の講師のみに偏ることなくバランスの良い研修運営を実施しております。特に若手講師陣の成長が著しく、委員会内の世代交代がスムーズに進んでいる感があります。来年度もeラーニングと対面の併用での開催予定です。会場での研修はオンラインより受講者同士の交流が深まりネットワーク形成の場になりますので、研修内容以外でも会員にとってのメリットとなることが期待できます。まだ受講されていない方は、是非来年度の基礎研修にご参加していただければ幸いです。そして研修委員メンバーとしても、今まで以上のより良い研修運営ができるよう取り組んでいきたいと思っております。



■ 会員の声 🏠

「基礎研修・SVを受講して」

中部ブロック 会員

仕事をしているとき、疑問に感じたり、壁にぶつかったことはないでしょうか。その時、どの様にしてそれを乗り越えているのでしょうか。

私は、一人ケアマネで働いていた期間が長かったため、直ぐに、そして、気軽に相談する相手はいなかったのです。その中で、基礎研修を受講し、顔見知りができ、支えられながら基礎研修Ⅲまで続けることができました。社会福祉士の基礎部分を学ぶことで、倫理綱領を常に頭におく等、仕事への向き合い方が変わってきたように感じています。以前は、わからないことが多く、調べてから回答していましたが、基礎研修受講後は、すぐに答えることができるようになりました。

その後、スーパービジョンを受けました。これまで受講したスーパービジョンとは異なり、自分の考えを言語化し、振り返りを行いました。一年間のスーパービジョン終了後、自信をもって仕事に向き合うことができるようになったのは、バイザーと共に振り返りを行うことができたのが大きかったと思います。結果的に、事例のケースについても自分で納得できる対応ができました。

時間的にも金銭的にも余裕がなく、自分には関係ないと思っていました。しかし、受講後に得たものは、何にも変えがたいものであり、私の財産となっています。今では、もっと早く基礎研修・スーパービジョンを受けていれば、現在の自分はいくらも変わっていたのではないかと思います。

私は、誰かに特別なことを伝えることはできません。でも、基礎研修やスーパービジョンで得られたものを、まだ基礎研修を受講していない方々にも体験してもらいたいと思うし、自分の業務を通して、他の職種の方にも伝えたいと思います。

2025 年度 一般社団法人岩手県社会福祉士会 第3回理事会 報告

【日 時】2025 年 10 月 11 日（土）

13：00～15：05

【会 場】302 室＜銀河ルーム＞

Web 会議システムを用いて開催

【出席者】理事総数 25 名 / 出席理事 20 名
（WEB 出席 12 名）監事 2 名

【報告事項】

- (1) 監事監査報告について、10/10(金)事務所に監事 2 名により監査を行い、問題ないことを確認した。
- (2) 社労士とキャリアアップ助成金について打ち合わせを行い、来年度の収支に計上を確認した。
- (3) 10 月から事務局パートを 1 名雇用した。事務局体制の強化を図った。(坂口)
- (4) 東北・北海道ブロック連絡協議会、ブロックの研修協力費は、3 万円から 5 万円に変更となった。(西尾)
- (5) 令和 7 年度士業連絡会について 11/21(金)開催予定。様々な士業の方々と意見交換を行う機会。
- (6) 日本地域福祉学会第 40 回（岩手大会）実行委員会、県士会から高橋岳志さんを推薦。
- (7) ばあとなあ委員会：受任体制が危機的な状況となっている。法人後見での対応を今後考えている。

【協議事項】

- (1) 岩手日報「くらし」面の連載寄稿について 岩手日報に 10 月からくらし面「共生」第 2・4 木曜日に掲載する。(Q&A 形式)
 - (2) 岩手県犯罪被害者等支援連絡会の参画について (坂口)
- ・社会福祉士の積極的参加を国が考えているため新規参画となった。異論は出なかった。
- (3) 会員の処分の見直しについて (熊谷、白畑)
 - ・7 月の理事会で戒告処分となった会員について、新たに不正に交通費を受領したことが発覚した。家裁書記官から県士会で聴取してご本人へ返還を行うようにとの指示を得る。
 - ・返還は 10/10 を期限とし、請求書を発送し

た。10/8 までに全額入金済みを確認し返還が完了した。

- ・処分の見直しは、戒告処分から除名処分に変更することについて理事の意見を聞きたい。除名処分であれば、臨時総会を開催し、書面開催等を用いて開催する必要がある。(西尾)
 - ・任意退会は定款で、理事会で身分審議中の者ではない規定になっている。
 - ・除名処分で総会決議事項として進める。弁明の機会を一度だけ設定する。臨時総会は、2025 年 11 月 22 日（土）10 時からとすることが提案される。理事から異論はなく承認される。
- (4) ばあとなあ岩手の安定的な運営体制の構築に向けて（提案）について（白畑）
 - ・財源を確保してばあとなあの事務局員を確保したい。人件費の負担方法を 3 パターン提案される。
- (5) 第四期中期計画の策定について
 - ・それぞれのブロック・委員会から S W O T 分析を提出した物をまとめた。今後の作成の参考にする。まとめた内容を A I にて分析し、第四期中期計画推進項目の参考資料として提示する。(西尾)
 - (6) 特別研修の企画について（北向）
 - ・10/18（土）「薬物依存からの回復とソーシャルワーク」を開催予定。犯罪被害者研修、A I 活用研修などを検討、予定している。A I 活用研修については、I C T チームでどのような活用、内容が適するかの検討を開始します。(高橋正之)
 - (7) その他
 - ア 山岸和敬荘閉所に伴う書類の整備及び管理について

【議決（承認）事項】

- (1) 会員の入会退会の承認について (熊谷)
- ・7 月以降入会 4 名、転入 0 名、転出 0 名、退会 1 名である。参加理事全員の拍手で承認される。
- (2) 公益目的計画の収支変更について (坂口)
- ・計画期間を令和 8 年 3 月 31 日から、令和 11 年 3 月 31 日に延期修正することの提案である。理事から異論はなく承認される。

Information ～事務局から～

◆ 「情報のメール配信化」に向けた「WEBCAS」登録のお願い ◆

昨年より導入している「WEBCAS」登録についてのお願いです。まだ登録設定をされていない会員は、当会 HP の「会員マイページ」からご登録をお願いいたします。また、「WEBCAS」のアドレスなどの設定変更は、御自身で行うことを基本としています。HP のパスワードやご不明な点等については、事務局までお問い合わせください。ご協力を宜しくお願いいたします。

◆ 今後の活動予定 ◆ (2025 年 12 月 19 日現在)

月日	事業・研修名	場所/方法
【1 月】		
1/6(火)	1 月正副会長会議	銀河ルーム
1/10(土)	2025 年度 第 4 回理事会	銀河ルーム・ハイブリット
1/14(水)	事務局代表者会議	Web 開催
1/17(土)	独立型・フリーランス社会福祉士情報交換会	アイーナ5階会議室501B
1/23(金)・ 24(土)	2025 年度 地域包括支援センター ネットワーク実践力養成研修	Web 開催
1/24(土)	SSW 研修会	ふれあいランド
"	災害支援ヒアリング(日本社会福祉士会依頼)	
1/31(土)	ソーシャルワーク三団体情報交換・懇親会	富八商店
【2 月】		
2/14(土)	東北六県生涯研修打ち合わせ(主催:岩手県)	マリオス
"	ばあとなあスキルアップ研修	
2/21(土)	2025 年 実践研究発表会	ふれあいランド・ハイブリット
"	ばあとなあスキルアップ研修 3 回目	
【3 月】		
3/7(土)	2025 年度 第 5 回理事会	銀河ルーム・ハイブリット
3/14(土)	スーパーバイザーアップデート講座(予定)	大阪

※最新情報は、HP または配信されるメール等をご確認ください

「メのぺっこな編集後記」

皆様、明けましておめでとうございます！本号では「信頼回復」と「新たな挑戦」などの重いテーマも扱いましたが、岩館さんの寄稿にあるように、AI 時代だからこそ「人の温かさ」という私たちの原点を大切にしていきたいと感じました。リレートークや会員の声から伝わる現場の熱量に、背中を押される思いです。本年も広報委員会一同、皆様に有益な情報をお届けできるよう努めてまいります。

b y 編集担当 野村明生



＜編集担当＞一般社団法人岩手県社会福祉士会 事務局
〒020-0816 岩手県盛岡市中野二丁目 16-1SETビル 3 階 A
TEL:019-613-5505 FAX:019-613-5506
e-mail アドレス:info@iwate-csw.or.jp

